まえがき

いま、『真実心』第二十七集を手にしているみなさん、みなさんは、平成十七年度現在、我が国に大学、短期大学（部）がどのくらい存在しているか、ご存知ですか。近時、文部科学省から届けられた、平成十七年度学校基本調査速報によれば、大学が前年度より十七校増えて七百二十六校、短期大学（部）が二十八校減少して四百八十校であって、都合千二百六校の多きに達している由です。これに対して、高校卒業生の数は毎年減少して、なんと平成十九年度には、受験生の数と大学の入学者定員とが同数になる見込みで、大学は受験生全員を合格させなければ経営が維持できない、という事態に直面すること必定です。

翻って、現代の世相に目を転じ、新聞、雑誌、テレビなどの情報メディアの報道に接すると、近時の一部の青少年の言動は想像を絶する無軌道・無節操ぶりで、これが戦後の民主主義が浸透した結果かと、我が目、我が耳を疑いたくなるほどの精神の荒廃ぶりを、露呈しているようです。大袈裟に言えば、最近の青少年の心に、各自の人

生哲学がないのは已むを得ないにしても、人間として各自が生きていく上での最低限の礼儀、ルールなどさえ持ち合わせていないのではないか、とほぼ一般化できるような近時の若者の精神の貧困さには、歎かわしくなります。

このような現代の社会情勢のなかにあって、大学という高等教育機関において高度な人間教育や専門教育を担い、推進していくためには、その中核に高邁な識見に基づいた、確固たる精神的支柱となるべき根本理念が必要、不可欠であることは言を待ちません。さいわい、我が京都光華女子大学は、冒頭に掲げたごとき、困難な諸事象に遭遇しても充分に、対処、克服できるように、全教職員が常に遠大な理想に向かって、これまでも教育実践に励んできましたし、今後もこの路線に沿って邁進する覚悟でありますから、この点、学長としても喜ばしい限りです。

この「遠大な理想」というのが、本学の建学の精神に基づく教育理念であることは言うまでもありません。それは〝仏教精神に基づく教育〟と〝女性を大切にする教育〟に集約され、校訓「真実心」に象徴されています。具体的には、明朗・快活な心、思いやりと奉仕の精神、真理の探究と誠の心、平和と平等の心を学んだ学生が各自、品性と知性の光り輝く、自立した近代女性に成長することを企図した、未来に向けて

の遠大な理想追及の理念と言うことができます。

以上の遠大な理想追求の理念の達成のために「宗教講座」は毎年催行されているわけですが、それは一言でいうならば、宗教的精神に立脚した言動ができる、近代的女性としての精神の涵養を目的として実施される、本学独自の講演会といえます。

本年度も、このような目的で催された「宗教講座」が成功裡のうちに、無事終了しました。『真実心』第二十七集に収録された講演数は全五編。いずれにも、みなさんの未知の知的好奇心を刺激する宗教的世界があますところなく語られているうえ、そこには宗教的精神も至るところに横溢していて、それらは格好の読物ともなっています。

どうかみなさん、この『真実心』に収載された諸講話に、今後は読者としてかかわって、これから歩むみなさんの人生に必要な手がかりを貪欲に吸収して、みなさん各自の人生がより豊饒になるように活用されることを、わたしは衷心より願ってやみません。

京都光華女子大学・
同短期大学部
学長　三村晃功